

『平成29年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野1 田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野1では平成29年度は42事業を実施し、A評価が23事業、B評価が18事業、C評価が1事業となりました。

農業分野では、農用地の利用集積による農業生産基盤の強化を図りながら、意欲と能力のある若手就農者の育成確保や幻の寿司米「ムツニシキ」をはじめとする農産物のブランド化、トップセールスによる販売強化などを推進しました。具体例として黒石米活用検討実験事業により「ムツニシキ」のロゴマーク、キャッチコピーを決定し、作付面積の拡充を図るとともに、取扱店舗の確保による販路開拓に取り組みました。また、新規就農フォローアップ事業により、農業経営の講座や総合相談会、現地視察を年5回実施しました。農業分野での成果として農地中間管理事業による農地の累計集積面積は60haを目標としていましたが、実績は198.3haであり目標を達成しました。

また、六次産業化・農商工連携を推進して地元の農産物を使用した加工品の開発・販売など、新たな食ビジネス創出への取り組みを支援することで、「食」を始めとした新たな産業の基盤づくりに努めました。具体例として黒石市六次産業化・地産地消推進事業では、六次産業化・地産地消推進協議会を設立し、黒石市六次産業化推進戦略を策定しました。

工業の分野では、地域力の向上と雇用の場の確保に向け、より一層の活性化や新たな産業開発等の促進に取り組みました。具体例として企業誘致・留置活動事業では、東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略を策定し、物流の拠点化と雇用創出を目的として、企業誘致に取り組みました。今後、着実に成果に結び付くよう税制等の優遇措置や規制緩和により企業が進出、拡大しやすい環境づくりを進めるとともに、ロジスティクス戦略では誘致企業の早期操業に向けた調整に努めます。

就業者支援の面では、新しい分野にチャレンジする起業家を積極的に支援するとともに、雇用機会の確保とマッチングに努めました。具体例として関係機関と連携し創業・起業セミナー、相談ルームを開催し、知識習得やビジネスプランの構想、課題解決に向けた総合的な支援により、市内で2人が起業しました。また、ハローワーク黒石と共催し、新たに新規高卒予定者を対象とした黒石管内単独の合同企業説明会を開催し、16社がブースを設け172人の生徒が参加しました。

そのほか、移住情報発信事業（人口減少対策事業）では、黒石市の情報発信や黒石市製品の販売PR活動を行いながら起業や定住へつなげることを目的に、地方に一定期間移り住み活性化に取り組む地域おこし協力隊を募集し、2人の採用を決定しました。

『平成29年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野2 田園観光産業都市黒石市への新たなひとの流れづくり

政策分野2では平成29年度は33事業を実施し、A評価が28事業、B評価が5事業となりました。

観光・物産の面では、歴史と伝統を活かした観光や物産にさらに磨きをかけるため、温泉郷などの観光地としての受け入れ体制の充実と、若者も集い楽しめる魅力あるまちづくりの推進に取り組みました。具体例として中野もみじ山「小嵐山」改良事業では、昼には紅葉床こうようゆかという名称で栈敷席を設置し、中野川を臨んで色づいた紅葉を眺めながら食事を楽しむプランを実施しました。夜間にはライトアップし「光のファンタジー」で夜紅葉を演出したほか、よさこい演舞の出演や、羽田空港搭乗ゲートにおいて映像を流し、首都圏にてPRを図りました。天候に恵まれたことから前年に比べ来場者数は増加し、平成29年度は10万2千人を超えており、夜間の来場者や外国人観光客は増加傾向にあることが成果としてあげられます。黒石市中心商店街空き店舗対策事業では、中心商店街の空き店舗に出店する小売業者等に対して店舗の改装費用の補助2件及び賃借料の補助5件を行い、中心商店街ににぎわいを取り戻すとともに市街地の活性化を図ったことが成果としてあげられます。

また、古い町並みを大切にし、来訪者が癒される空間の創出に努め、観光・まち歩きの拠点となる「松の湯交流館」を有する中町こみせ通りは、国指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などを含む伝統的建造物の維持継続を図りました。具体例として景観形成事業では、中心市街地のユニバーサルデザインを基調とした整備と今後のあり方について、市民・企業・関係機関等と情報共有を図りました。松の湯交流館事業では、黒石ねぶた祭り・黒石よされまつり期間中において、松の湯交流館の開館時間を延長し祭りに合わせた館内のディスプレイ等を実施することで、集客増を図り賑わい創出に寄与しました。さらに、館内やまちなか情報を提供するため、WEBサイトの内容を充実させました。

さらに、歴史的・文化的に貴重な文化財については、適切な保存と活用を図り、黒石よされなどの伝統芸能を後世に継承するとともに、自主的で個性豊かな芸術・文化活動を積極的に支援しました。具体例として黒石よされ事業では、市民総参加による黒石よされを目指し、流し踊りへの参加は県外の団体も含め32団体、踊り子3,900人参加と伝統継承の事業の目的を達成でき、観光客数が80,200人であり、市の活性化にも貢献できました。

移住促進の面では、首都圏等の方々を本市に還流させるため、国・県の取組とも連携しました。また、首都圏をはじめ市外に向けて本市の魅力を情報発信するとともに、本市を訪れる方々と市民が交流できるような仕組みづくりに努めました。具体例として移住情報発信事業では、首都圏で開催される移住セミナーに参加し、成果として移住に関する相談・情報提供の件数は18件を目標にしていたが、実績は27件であり目標を達成しました。

『平成29年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野3では平成29年度は35事業を実施し、A評価が26事業、B評価が5事業、C評価が4事業となりました。

子育て支援の面では、子どもが心身ともに健やかに育ち、子どもを産み育てる市民が、喜びを感じることができる生活環境の実現に向け、教育・保育の確保、妊産婦・乳幼児・児童の健康確保、要保護児童への対応を基本目標とした黒石市子ども・子育て支援事業計画に基づいて、多面的な子育て支援対策を総合的に推進しました。具体例として子ども医療費給付事業（乳幼児医療費給付事業）では、就学前児童の医療費を無料化し、成果としては現物給付により入院141件、通院22,694件の保護者の負担軽減を図りました。相談・指導・支援、訪問事業では、子育て世代包括支援センターと連携しながら不安やリスクのある妊婦に対し継続支援を実施し、必要時には医療機関等関係機関との連携を図り、包括的な支援及び訪問を実施するとともに、乳児のいる全家庭を訪問し、育児不安を傾聴・把握することにより産後うつや虐待予防を図り、妊娠期からの継続した支援を実施した人の割合は目標値の50.0%に対して実績値は96.7%であり目標を達成できました。

学校教育の面では、将来の本市を担う人材の育成に向け、「個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育」のスローガンのもと、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視し、特色ある教育活動の推進をはじめ、教育環境の充実のための学校適正配置と併せて、子育て世代から要望されている学校給食の小学校完全実施に向けて取り組みました。具体例として算数・数学「UPる」事業では、市内各小・中学校に計9人の算数・数学の指導員を配置し、チームティーチングによる児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行いました。小中学校の適正配置推進に関する事務では、六郷・上十川小学校の閉校記念式典を実施しました。

新黒石東小学校統合準備委員会では、統合後の校歌、校章は現黒石東小学校のものを採用することに決定しました。

また、黒石・中郷・北陽小学校統合準備委員会では、統合後の校歌は現黒石小学校のもの、校章は新しいデザインを採用することに決定しました。

社会教育の面では、生涯にわたり健康で明るく活みなぎる地域社会の実現に向け、学校教育と連携を図るとともに、市民同士のコミュニケーションを深め、誇りを持ち、家庭や地域での学びを活かした人と人とのつながりと発信していける人づくりを大切にする社会教育の推進に努めました。具体例として、リーダーまるかじり体験塾では、成果として地域や学校でリーダー的な役割を担っている青少年13名を対象にコミュニケーション能力を高め、炊事活動やレクリエーション、軽スポーツ等様々な体験学習をすることにより、自主性を養い、リーダーとしての資質向上を図りました。銀河宇宙探検隊では、延べ82名が参加し、自然環境体験学習（天文教室）を開催することで自然に対する興味や関心を高め、自らの将来に夢や希望を持つ想像力豊かな心の育成を図りました。

『平成29年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野4 健康都市宣言に基づく健康づくりと「黒石力」(ニコミュニティカ)を活かした地域づくり

政策分野4では平成29年度は25事業を実施し、A評価が12事業、B評価が13事業となりました。

健康づくりの面では、市民がいきいきと暮らすために、健康診査及びがん検診の受診率の向上など、地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指した施策を展開しました。具体例として黒石市健康マイレージ事業では、健康づくりの促進とがん検診受診率向上を図るため、健康づくり事業にポイントを付与し、景品抽選応募者数は増加しましたが、各健(検)診受診率について、目標値を達成できていないため、事業の内容・実施方法について見直しが必要です。

スポーツの面では、人口減少社会においてスポーツ人口が減少する傾向にはありますが、積極的にスポーツを取り入れ、喜びと感動に満ちたスポーツの振興に努めました。具体例として各種スポーツ教室では、冬期間の現役競技者の練習不足を解消し、基礎体力づくり及び技術の向上を目的にテニス教室を4回開催し、小学生から一般までの149名が参加しました。学校施設開放事業では、市民の健康増進、生涯スポーツの普及、技術向上、青少年の健全育成のため市内スポーツサークル活動の場として学校体育施設を開放し、成果として延べ利用者数29,299人の利用がありました。

協働体制の確立については、市・消防署・各地区協議会・市民・市外在住の本市出身者等が、それぞれの役割分担を明確にし、ともに協力し合いながら、これまで培われてきた地域コミュニティを活性化させ、地域のことは地域で考え行動する住民主体のまちづくりを支援しました。具体例として自主防災組織の設立と支援に関する事業では、災害に強いまちづくりを進めるため、自主防災組織の設立及び活動に対し補助金を交付することで支援しました。成果として、自主防災組織の結成数は9団体を目標としていましたが、実績は10団体であり目標を達成しました。黒石市ごみ減量化事業では、地球温暖化防止や自然環境の保全、さらには資源の節約が強く求められており、ごみの適正処理及び3R(リデュース・リユース・リサイクル)の促進は必要不可欠となっていて、ごみ減量化及びリサイクル率向上の実現に向けた施策を図りました。ただし、平成28年度のごみリサイクル率は目標値26.0%に対して実績値12.7%であり目標を達成できていないことから引き続き目標達成に向けて取り組みます。